

令和3年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立盲学校

<p>《高知県の教育の基本理念》</p> <p>(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材</p>	<p>《6つの基本方針》</p> <p>①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保</p> <p>《6つの基本方針に関わる横断的な取組》</p> <p>①不登校への総合的な対応 ②学校における働き方改革の推進</p>	<p>学校像</p> <p>《目指すべき姿》</p> <p>幼児児童生徒像</p>	<p>視覚障害教育の専門性を発揮し、生きる力を育む確かな教育を推進する学校</p> <p>(1)一人一人が確かな学力と専門技術を身に付け、社会参加と自立に向けて学ぶ意欲を持てる学校 (2)一人一人の人権が尊重され、安心して学習・生活ができる環境が整った学校 (3)地域のニーズに応える、視覚障害教育のセンター的機能を発揮する学校 (4)教職員一人一人が教育公務員としての自覚と誇りを持ち、切磋琢磨、協働しチームとして教育に取り組む学校 (5)幼児児童生徒、保護者、地域、県民から信頼、必要とされる社会に開かれた学校</p> <p>夢に向かって「自らまなび」「社会とつながり」「たくましくあゆむ」生きる力を育てます</p> <p>(1)【知】「自らまなび」 主体的、意欲的に学び続けることができる幼児児童生徒 (2)【徳】「社会とつながる」 周りの仲間とのつながりを大切に、社会参加できる幼児児童生徒 (3)【体】「たくましくあゆむ」 自ら障害に向き合い、自己実現に向けて積極的に行動できる幼児児童生徒</p>	<p>「チーム高知盲、100年目に向けて着実に歩みを進めよう！ ～高めよう専門性、広めよう地域・社会に～」</p> <p>令和3年度キーワード 高知盲『GIGAスクール元年！』 &『魅力発信！』</p> <p>「超スマート社会(Society5.0)」の到来に向け、デジタル社会において自ら積極的に情報を収集・活用し学び続けることができる視覚障害幼児児童生徒の育成を目指すための取組を積極的に推進する。また、盲学校の存在価値・魅力の発信と啓発を一層強化することにより、社会に開かれた学校としての役割を果たす。 ◆学校全体、教職員の視覚障害教育の専門性に基くICT活用力・指導力を向上させる。 ◆一人一人の児童生徒に応じたICTの活用を推進するとともに、ICTを活用した授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ◆盲学校の存在価値・魅力の発信と啓発を一層強化することにより、社会に開かれた学校としての役割を果たす。 ◆校務支援システムの活用等による働き方改革を推進する。</p>
---	--	---	--	---

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】●成果 ○課題	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】●成果 ○課題	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上	視覚障害教育の専門性の向上 学校全体、教職員の視覚障害教育の専門性に基づくICT活用力・指導力を向上させる。	《現状》視覚障害教育の専門性の可視化による各自の専門性向上に向けた取組や、点字指導、ICT活用に向けたニーズに応じた研修会の実施、理療科教員の支援体制の拡充により、専門性の向上に繋がることができた。ICT活用については、教員間でスキルの差が大きい。 ○新転任者研修の充実を図るとともに、教職員一人一人が担当する幼児児童生徒の指導・支援に必要な専門性を向上させる。 【参加教職員の満足度:90%以上】 ○幼児児童生徒の情報活用能力の育成に向けたコンピューター等の情報機器の活用について視覚障害教育の専門性に基づいた教員のICT活用力・指導力の向上を図る。【専門性チェックリスト(ICT活用スキル)の活用による確認とスキル向上:100%】	○専門性チェックリストの活用 ○専門性向上フォローアップ研修の開催 ○新転任者研修準備グループでの取組推進 ○理療科教員によるサポート体制の継続・充実 ○GIGAスクール構想推進プロジェクトチームによる取組推進(リーダー、教頭、関係分掌の長、各学部主事) ○GIGAスクールサポーターによる研修会・ミニ研修会の複数回実施 ○視覚障害に特化したICT活用研修会の実施 ○グループ別ICT活用研修の実施(全盲単一・弱視単一・弱視重複、重度重複) ○専門性チェックリストの活用 ・ICT活用スキルの確認 ○オープンスクールでのICTブースの設置	●1学期に12回新転任者研修を実施した。(満足度参加者の90%以上得ている)。 ●理療科教員がTTに入る授業が増え、専門性の向上につながっている。 ●ICTに関する特別支援教育課主催の研修を悉皆研修とした。また、教育センター主催の研修を受講を勧めた。校内グループ別ミニ学習会でクロームブックに関する研修等を実施したりすることにより授業でのICTの活用が広がった。会議や研修会等でICTを活用する場面が増えている。 ○ICTを活用しようという意識は向上している。さらに、活用スキルや指導力を高める必要がある。	・専門性チェックリストについては準備グループの第1回目の会で実施する。実施した新転任者研修の課題等について分析する。 ・理療科教員と連携した取組を今後も継続し、成果を全体で共有する。 ・各グループから出された課題に応じて12月中にミニ学習会を実施する。 ・10月中旬にICT機器活用に関するチェックリストを用いてのICTスキルの確認を行う(1回目)。 ・2学期中にGIGAスクールサポーターを活用した研修会を実施する。	ICTを授業で活用しようとする意識が高まり、日々の学習活動でICTを活用する機会が増えた。また、理療科教員のサポートにより、特に全盲の生徒への点字や触察、ICT活用の指導支援に関する専門性が向上した。 ●12回実施した新転任者研修で、視覚障害の幼児児童生徒の指導支援に必要な専門性について理解を深めることができた。【アンケートによる参加者の満足度:肯定的評価100%】 ●ICTに関する研修会・学習会の実施やGIGAスクールサポーターの活用により、ICT活用力が向上した。【GIGAスクールサポーターの活用:5回 研修会・学習会:9回】 【ICT活用専門性チェックリスト…スキル向上:100%】 ○視覚障害教育の専門性に基づいたICT活用力のさらなる向上。Aセメント力の向上。 ○研修会・学習会の内容、計画についての見直し。	・担任が積極的に個々のニーズに合わせて配慮し関わってくれている。また、日々の情報交換もできた。 ・教員は、盲学校として必要なものは何か等、常にアンテナを張り、コロナ禍においてもオンラインで研修を行う等して専門性の向上を図っている。 ・美ら海水族館と連携したオンラインの触察の研修の取組は素晴らしい。このような専門性を高める研修等に引き続き取り組んでほしい。	○理療科教員とのさらなる連携。 ○学部間で系統的な指導支援ができるようにする。 ○視覚障害教育の専門性の向上(Aセメント力の向上) ○それぞれの研修会・学習会の目的を明確にし、回数や実施時期などを検討し計画的に実施する。
キャリア教育の充実	一人一人の児童生徒に応じたICTの活用を推進するとともに、ICTを活用した授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	《現状》コロナ禍において地域との直接的なかわりや大会等への参加は減少したが、作品展等への出品やオンラインリモートを活用した交流及び共同学習の取組が進んだ。個々の実態に応じた情報活用能力の育成に向けた取組が必要である。授業改善については、統一した様式の学習指導案や授業評価表を使った授業改善のPDCAサイクルでの取組が一定推進した。授業評価表をツールに、授業改善について協議ができています。授業でのICT活用については、指導者のスキルや児童生徒の実態により、活用頻度に差がある。 ○デジタル社会に対応できる素養を育むため、各児童生徒の障害及び発達段階等に応じたICTの活用を推進する。【個別の指導計画への明記:100%】 ○ICTの活用により、主体的・対話的で深い学びを推進する。【小中高の児童生徒の1日1回以上のICT利用率:80%以上・各教員授業等での活用率3回以上:100%】	○交流及び共同学習のオンラインリモートの積極的活用推進 ・中四国地区盲学校等との交流及び共同学習 ・居住地校交流学習 ・オンラインリモートの準備等への児童生徒の関与 ○児童生徒のICT活用一覧表の作成・共有 ○個別の指導計画【自立活動】に、ICT活用について明記 ○ICTを活用した(児童生徒)発表会等の実施	●オンラインを活用し、交流及び共同学習を実施することにより、リモート学習に慣れ親しむことができています。 ●個別の指導計画にICT活用について明記し、ICTを意識した授業づくりができています(100%)。 ●様々な学習活動でICTを積極的に活用することにより、児童生徒が興味・関心をもって授業に取り組む姿も見られるようになった。 ○重度重複の児童生徒への効果的な活用について理解を深める必要がある。 ○幼児児童生徒のICT機器使用時の姿勢への配慮が必要である。	・12学期中に全員がICTを活用した公開授業を実施するとともに活用事例集を作成し、3学期にICT活用実践に関する発表会を実施する。 ・10月中旬までにICT活用アンケート(1回目)を実施する。 ・ICT活用フォルダーで具体的な取組を整理し活用する。 ・GIGAスクール構想推進プロジェクトチームが中心となり、教職員への情報提供を引き続き行うとともに、ニーズに応じた学習会を実施する。 ・書見台などを使用するなどして姿勢に配慮した環境を整える。	様々な学習活動で、創意工夫をしてICTを活用するようになり、児童生徒が興味・関心をもって主体的に学ぶ姿が多くみられるようになった。 ●オンラインを活用した交流及び共同学習の実施により、コロナ禍においても交流を深めることができた。【居住地校交流:5回、中四国盲学校:11回、地域の小学校:1回】 ●個別の指導計画にICT活用について明記し、ICTを活用した授業づくりができた。【個別の指導計画への明記:100%】 ●児童生徒のICT活用力も向上している。【小中高の児童生徒の1日1回以上の利用率 77%(小82%, 中90%、高95%、高理40% ・各教員の授業での活用率週3回以上 71%】 【学校評価アンケート肯定的評価:教員87%、生徒75%、保護者88%】 ○ICT活用に関する環境を更に整える。 ○各教科等において主体的・対話的で深い学びができるようICTを活用する。	・ICT機器の活用はよくできていると思う。 ・学校で活用しているICT機器や子ども達がどのように活用しているかよく理解できた。 ・県外の盲学校とのオンラインの交流はコロナ禍で進んだことでもあり、今後も盲学校の児童生徒の少人数化への対応として継続してもらいたい。	○オンラインによる交流及び共同学習を今後継続して行い、内容の充実を図る。 ○家庭とオンラインでの授業が可能となるよう取組を進める。 ○情報モラル教育や健康に配慮したICT使用方法についての指導を充実させる。 ○学習評価について理解を深め、各教科等の目標が達成できるよう効果的にICT機器を活用する。
学校設定項目	盲学校の存在価値・魅力の発信と啓発を一層強化することにより、社会に開かれた学校としての役割を果たす。	《現状》センター的機能の充実や眼科医会との連携、オープンスクール、校外臨床実習等の実施により、盲学校の存在や教育内容、相談機関として一定認知度が高まり、センター的機能を果たすことができていますが、ひまわり教室、幼稚部、高等部理療科の幼児・生徒数について減少している。 ○県内の全ての視覚障害児・者及び家族が盲学校の存在や教育内容について知ることができるよう、教育・福祉・医療等の関係機関への啓発を強化する。【直接訪問件数:50件以上】 ○学校での取組、学習活動等を広く校外に発信するとともに、盲学校の専門性を積極的にアピールすることができる企画、出前講座等を実施する。【ホームページ更新:50件以上】	○管理職、サポート部、進路部、理療科教員を中心とした、関係機関への直接訪問(ポスター、リーフレット等の配付)及び学校概要等説明の実施 ○関係機関への啓発機会の確保と実施、他機関と連携したイベントへの参加。 ○理解・啓発動画の作成 ○リーフレット等のバージョンアップ ○各学部・舎・分掌等で創意工夫した盲学校の魅力発信 ○ホームページ等への幼児児童生徒の作品発表、発表会等の動画配信 ○全校体制でのオープンスクールの開催	●管理職、サポート部、進路部、理療科教員を中心に、関係機関への訪問、電話及びパンフレット等の配布により本校教育の情報を伝え、理解啓発に取り組んだ。 ●見え方に関するチラシを作成し、養護教諭の研修会の講師を務めた際に受講者に配付し理解啓発に取り組んだ。 ●紙とあそぶ作品展などへの作品の出品により本校の魅力発信した。生徒が、授業で学校新聞を作成し地域に配布した。 ●ホームページ等で随時本校の取組を発信し理解・啓発につなげている。 ○オープンスクールは企画をしたが、コロナの感染状況により実施できなかった。	・今後も引き続き、関係機関への魅力発信、啓発活動を行う(可能であれば直接訪問を行う)。 ・ホームページの更に有効な活用方法について検討し取組を進める。 ・コロナ禍においても、実施可能な方法について検討し取組を進める。	コロナ禍においても、工夫をして盲学校の魅力を発信した。 ●関係機関への訪問、電話及びパンフレット等の配付や研修会の講師を務めるなどにより本校教育の情報を伝え理解啓発を進めることができた。【サポート部:直接訪問31回 資料送付24件 眼科医へのお知らせ眼科医96名×3回 その他研修会:県内養護教諭対象オンデマンドでの講話1回(配信:388校)、高知市の保育園幼稚園対象の研修(対面とオンライン:117園)、ルミエール主催関係者対象の講座での盲学校の紹介:2回(オンライン)】 【進路部…訪問14件、資料配布7件、電話4件】 【理療科:電話17件】 ●機会を捉えて、幼児児童生徒の作品を出品する、生徒が作成した学校新聞を地域に配付することなどを通して、本校の魅力を発信した。【作品等の出品:延べ56人(芸術31、検定12、作文3、その他10 生徒作成の学校新聞の地域への配付:2回】 ●交流及び共同学習、ホームページ、盲学校新聞の地域への配付などにより本校の取組を発信した【ホームページ更新:65回】 【盲新聞学校周辺1300世帯に配付:3回】 ○コロナ禍においても可能な情報発信の方法を増やす。 ○地域とつながる学習活動を推進する。 ○本校の魅力について、再度確認する。	・コロナ禍の中で、できることを工夫し情報発信もよくできていると思う。 ・ホームページや家庭に配布される盲新聞は関心をもって見ている。 ・福祉、医療等と連携した取組を今後も推進してもらいたい。 ・地域と連携した防災への取組もコロナ禍でも工夫して進めてもらいたい。	○対面以外での情報発信の方法を増やす。 ○作品展などへの幼児児童生徒の作品を積極的出品等を継続して行う。 ○地域の小中学校との交流及び共同学習で本校の魅力を更に発信する。 ○本校に蓄積されている視覚障害教育に関する指導方法を再度確認し、発信する。
働き方改革	校務支援システムの活用等による働き方改革を推進する。	《現状》コロナ禍の清掃・消毒業務については会計年度任用職員等への業務分担により、教員の負担増は少なく抑えることができたが、子どもと向き合う時間の十分な確保に向けて継続した取組が必要である。 ○校務支援システムの導入・活用等による業務軽減、グループウェアの活用(資料事前配付等)による会議時間の短縮を図る。【会議の勤務時間内終了:100%】 ○休憩時間の確保及び、時間外勤務を削減する。 【一人当たりの月平均時間外労働:35時間以下】 ○お互いに支援・援助の依頼しやすい職場を目指す。 【学校評価アンケート:肯定的評価80%以上】	○校務支援システムの円滑な運用に向けた校内研修会の実施 ○各自PC利用の職員会等の実施 ○グループウェアの活用等による会議等のもち方の見直し及び時間短縮 ○会計年度任用職員等による清掃業務等の分担及び教材作成等の支援 ○校時表見直しによる休憩時間及び幼児児童生徒の指導に関わる協議時間、教材作成時間の確保 ○ノー残業デイ及び警備開始時間の徹底 ○夏季休業中の一斉閉庁日の設定 ○メンタルヘルス研修、ラジオ体操の実施	●職掌を行わない、会議の持ち方の工夫・精選、グループウェアで周知をする、教員間で指導支援の在り方について見直すことにより、子どもと向き合う時間や教材研究の時間が増えてきている。 ●会計年度任用職員への業務依頼により負担軽減につながった。 ●夏季休業中の一斉閉庁日を設定により、連続休暇が取得できた。 ●メンタルヘルス研修会を実施し、職員の健康管理につながった。毎朝のラジオ体操でリフレッシュを図ることができている。 ○定時での退庁やノー残業の実施はほどきてはいるが、業務量は変わっていない。特に年度当初年度末は時間内に処理できないことが多い。	・会議については、引き続き内容や回数の精選を行う。 ・情報共有が円滑に行えるよう、グループウェアの活用を徹底する。 ・ノー残業デー、毎朝のラジオ体操は引き続き行う。 ・共有の各種データや資料の整理を行い業務軽減につなげる。 ・学部や分掌で業務の見直し・精選を行い来年度の組織編成に活かす。 ・会計年度任用職員の活用方法について再検討し更なる業務軽減につなげる。	職掌を行わない、会議の持ち方の工夫と精選、グループウェア活用、教員間での指導支援の在り方の見直し、会計年度任用職員への業務依頼などにより、子どもと向き合う時間や教材研究の時間が増えたことにより、時間外勤務の削減につながった。 【会議の勤務時間内終了:90%】 【一人当たりの月平均時間外労働時間:1.3時間】 ●お互いに支援・援助しやすい職場つくりを意識して業務ができた。【学校評価アンケート:意識した働き方ができた:90%】 ○一部の教員に負担がかわらないようにする。 ○幼児児童生徒指導・支援に関する協議時間の確保 ○文書作成に係る時間の削減 ○繁忙期の業務時間の確保。 ○会議の持ち方のさらなる工夫・精選 ○資料検索等に係る時間の削減。	・コロナ禍の中、感染症対策を徹底して行いながら、働き方改革を意識して日々の業務に取り組みたいと思う。 ・アンケート結果から見てこない先生方の働き方(持ち帰りの業務など)にも配慮することが必要だと思う。 ・一人一人の子どもへの声を大事にし、必要なサポートをしていってほしい。	○各学部・分掌部等で業務の見直しや標準化を行う。 ○繁忙期の業務時間の確保ができるようにする。 ○年間を見通して、前年度末にできない先生方の働き方(持ち帰りの業務など)にも配慮すること。○文書作成の手順や様式を作成する。 ○共有フォルダーの整理を更に進める。 ○グループウェアの入力方法について整理する。